

特別展

SPECIAL EXHIBITION



Eurasia Unit for Border Research (Japan)

主催：北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 境界研究ユニット (UBRJ)

# 国境観光

PALESTINE

パレスチナ自治区

JAPAN

長崎県対馬市

KARAFUTO

樺太 (1905-1945)

閉ざされた空間で生み出す。  
境界を越えて向こう側と繋がる。  
国境観光の様々なかたちと  
可能性を考える。



会場：北海道大学総合博物館 2階グローバルCOE展示コーナー

会期：2014年8月12日(火)～2015年3月 \*月曜休館(祝日の場合は翌日休館)、臨時休館あり

時間：9:30～16:30 11月以降は 10:00～16:00

\*入場無料

対馬市／稚内市／北海道立文学館／北海道大学観光学高等研究センター／北海道大学総合博物館／  
協力 境界地域ネットワークJAPAN (JIBSN)／特定非営利活動法人国境地域研究センター (JCBS)／風交舎

# SPECIAL EXHIBITION

## BORDER TOURISM

# 国境観光

の様々なかたちと可能性を考える。

北海道大学総合博物館2階のブースで5年にわたって展示を行ってきたグローバルCOEプログラム「境界研究の拠点形成」は終了しましたが、平成26年4月からは、スラブ・ユーラシア研究センターの境界研究ユニット (UBRJ) が事業の一部を引き継ぎ展開させています。本展示はその第一弾として行うものです。

国境やボーダーには紛争や緊張など常に暗いイメージがつきまといりますが、そこには多くの人々の地道でたくましい生活があります。国境・境界地域の観光は、人々のさまざまな暮らしの糧になります。例えば、砦に囲まれ、境界を越えられない人々が閉ざされた空間のなかで生み出す観光が平和に寄与します。また、境界を越え、向こう側とつながることでゲートウェイとして地域を創造する観光もあります。本展示を通じて、世界のパレスチナ、日本の対馬の事例を素材に、国境観光の様々なかたちと可能性をみなさまと一緒に考えていければ幸いです。

岩下明裕 (UBRJ 代表)



段々畑でとれたパティール名物の茄子を手にする親子

### PALESTINE パレスチナ自治区

村の遺産と暮らしを守るための観光

ガザ地区への空爆の激化で世界的な関心を集めているパレスチナですが、本展示では比較的情勢が安定しているヨルダン川西岸地区を取り上げています。

2014年6月、ローマ時代から続く灌漑システムによる段々畑の景観(ベツレヘム県パティール村)が世界遺産に登録されました。同時に、イスラエルの占領により破壊の危機にさらされていることから、危機遺産リストにも登録されました。住民たちは、イスラエルが「テロ対策」を理由に建設を続ける分離壁から伝統的な灌漑農業を守るため、外国人向けの観光ツアーに取り組んでいます。展示を通じて、パレスチナ問題を少しでも身近に感じ、国境観光のもつ「力」を感じてください。

PHOTO: 高松郷子(北海道大学観光高等研究センター)



フェリーターミナル待合室の韓国人観光客

### JAPAN 長崎県対馬市

日本の境界地域のモデルを目指す

UBRJが中心となって実施している調査に基づき今年刊行されたブックレット『国境の島・対馬の観光を創る』(北海道大学出版会刊)の内容を中心としたパネル展示とDVDの上映を行っています。UBRJは、隣国との境界が全て画定し最も安定した境界地域である対馬を、八重山-台湾、稚内-サハリンといった日本のその他の境界地域の観光モデルにしようと奮闘しています。対馬にはすでに韓国から多くの観光客がやっていますが、日本人観光客の誘致が差し迫った課題となっています。また、対馬沖は日露戦争の激戦地であると同時に、日露友好のエピソードが残る土地です。今後は釜山に住む多数のロシア人を観光客として誘致するというビジョンも見えつつあります。



トナカイそりの輸送

### KARAFUTO 樺太(1905-1945)

北緯50度の国境線を訪れた人々

1905年、日露戦争に勝利した日本はポーツマス条約により北緯50度以南の南樺太を領有しました。国境には、国境標石4基、中間標石17基、木標19基が設置されただけでなく、幅10mで森林が伐採され、東西約133kmに及ぶ文字通りの国境線が引かれました。

北辺の陸の国境は、多くの作家・詩人のあこがれの地でもありました。大正～昭和初期の旅行記などから、当時、境界線を目の当たりにした人々が何を感じ、何を考えたのか、パネルで紹介しています。

現在の日本の国境線はすべて海上にあり、目には見えません。展示を通して国境や境界の存在を感じ、考えを巡らせるきっかけとなれば幸いです。

PHOTO: 稚内市教育委員会所蔵

## ACCESS アクセス

北海道大学総合博物館 2階 GCOE 展示ブース  
札幌市北区北10条西8丁目(北海道大学キャンパス内)  
TEL: 011-706-2658 <http://www.museum.hokudai.ac.jp/>

## CONTACT お問い合わせ

北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター  
境界ユニット (UBRJ)  
北海道札幌市北区北9条西7丁目  
TEL: 011-706-2388 FAX: 011-706-4952



最新情報はホームページをご覧ください  
<http://src-h.slav.hokudai.ac.jp/ubrij/>

